

三宅島年末お掃除ボランティア 2009

活動報告

本年も多くの関係団体の皆さまのご協力により、50名を超える方々にご参加いただくことができました。例年このプログラムに参加くださった地元の中学生の生徒さんたちがインフルエンザの影響で参加が難しくなりましたが、それを除くと、とても良い交流が実現できました。本当にありがとうございます。

今後も皆さまにお力をお借りする機会もあるかと思えます。引き続き暖かいご支援をお願いしつつ、今回の活動へご参加いただきました皆さまへ御礼を申し上げます。



お掃除 V 活動だけではなく、小次郎井戸、大路池、溶岩跡など、三宅島内にある名所・史跡を巡る党内一周もすることができました。参加者の皆さんは三宅島の噴火災害だけでなく、その歴史や文化にも触れ、三宅島をより深く感じることはできたのではないのでしょうか。

三宅島お掃除ボランティア2009

今年で5回目を迎える2009年末お掃除ボランティアが第1回(2009年12月4日~6日)25名、第2回(12月11日~13日)27名が参加し開催されました。今回は、1回目は欠航による延泊、2回目は八丈島経由と、大幅なプログラムの変更にも関わらず、臨機応変な対応で、不安もなく行うことができました。2日目は風の家を拠点に、4人一組となり一人暮らしのお年寄り宅を中心に作業を行いました。窓拭きや換気扇の掃除、部屋の片付けなどを行い島民からも大変喜ばれました。また、参加者同士の交流もあり、様々な団体の方々との交流も深めました。参加者は初めて三宅島を訪れた方も多く、この活動を通じて様々な気づきや経験ができたといいます。以下参加者の感想です。

今回のプログラムを通して思ったことは、今後、より多くの組合員の方にも経験して欲しいということ。私たちボランティアはまず、より多くの人に三宅島の現状を知ってもらうことが大事だと思います。三宅島を知り、そして、本土に帰り、友人や知人に伝え、そして興味をもたれた方がまた三宅島に行き、人間の温かさを感じ、人間の輪を広げていく。これこそが、最高のボランティアだと思います。

窓ふきを実施させていただきました。お伺いしたお宅では、女性の高齢者の方でしたが、とてもお優しく気を遣ってください方で、気持ちよくお手伝いさせていただきました。お茶をごちそうになる間、島の唄を歌ってくださったり、避難したときの思い出をお話いただき、とても楽しい時間を過ごす事ができました。彼女をはじめ、他の島民の皆様もお元気で過ごされることを願っています。

今回、天候の影響で船の到着が大幅に遅れましたが、現地スタッフの皆様や訪問先のご家庭のおかげでほぼ予定通りのプログラムをこなすことができました。お掃除というのはきっかけにすぎず、これで島民の方とコミュニケーションをとれるこのプログラムはとても良いと思います。これからも継続をお願いします。

帰島支援の時と同様にいろいろな団体や年令の方と同じ活動をできるというのはとてもいい経験になった。三宅島という場所がもっと多くの人の興味を引き、もっと来やすい所になっていることを願っています。

ご参加いただいた皆様をはじめ、運営協力をいただきましたみやけじま風の家の皆様、各組織の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

三宅島年末お掃除ボランティア2009

日時：2009年12月04日(金)～06日(日)
2009年12月11日(金)～13日(日)

場所：三宅島

主催：◆三宅島災害東京ボランティア支援センター
みやげじま<風の家>
〒100-1212
三宅村阿古 532-1(日本建築学会三宅島研修所)
TEL 04994-5-1470 FAX 04994-5-1471
◆東京災害ボランティアネットワーク
〒164-0011
中野区中央 5-41-18 東京都生協連会館 3階
TEL 03-3380-1614 FAX 03-3380-1615

参加者：東京からのボランティア参加 51名
東京からの事務局ボランティア 02名
三宅島現地事務局ボランティア 14名 計67名

プログラム

：お掃除件数 14件
島内視察 島民ボランティアによる島内一周視察



【写真】

◆1段目：高い場所にある窓を拭く参加者。高齢者ではなかなか難しい場所を掃除させていただきました ◆2段目：島民の方が自慢の二胡を弾いていただきました ◆3段目：帰りの船を待つ間、記念写真をパチリ ◆4段目：延泊してしまった第一週の班は、最終日の昼食をみんなで作りました ◆真ん中下：玄関先の庭の草刈りの様子。鎌を持つ手がおぼつかない!? ◆左下：1983年の溶岩跡地の視察。島内をぐるりと一周して島の現状視察もおこないました

コラム<サラリーマン奮闘記>

連合東京は2009年10月30日、第11回定期大会を開催し、向こう2年間の活動方針を確認した。特に地域組織の強化という面から地協に職員を複数配置することとし、私も12月1日付けを持って連合東部地協に異動することとなった。東部地協は浅草にあり、隅田川沿いの東京スカイツリーを真正面に見る眺めの良い事務所である。地協での活動は各自治体への政策制度要求の他、組織拡大、社会貢献活動を地域で展開することになり、より現場に近い環境の中で仕事をするようになる。今までとは勝手が違い、戸惑いや不安はあるものの、東災ボに参加する団体・グループの皆さんと一緒に活動ができたことは、私にとって何よりの財産となっている。連合は労働団体としての役割を認識し、働くものの立場に立った運動が求められる。大きな組織であるがゆえに多様な人々とともに運動していくことの難しさもあるが、東災ボの活動を通じて、多様な団体とのネットワークでつながることの意味を強く認識している。このネットワーク機能を地域の中で活かして行きたい。(真島明美)

みやけじま<風の家>の運営が変わります

今年は、2000年噴火災害から10年という節目を迎えます。

振り返れば、10年という時の中、困難の連続ではありましたが一方で多くの方々と心温まる出会いと交流が積み重ねられた10年であったと思います。

みやけじま『風の家』はこれまで育まれた『やさしく・なかよく』人と人とがつながっていくことを大切に、引き続き活動を続けて参ります。

あわせて、広く多くの方々にとって良い家としてあるために多くの皆さんと力と気持ちを合わせて歩んで参りたいと思います。



みやけじま<風の家>

開設曜日：毎週火・金曜日

開設時間：午前9時から午後3時

連絡先：みやけじま<風の家>

東京都三宅島三宅村阿古 532-1

日本建築学会三宅島研修所気付

電話:04994-5-1470

FAX:04994-5-1471

miyake_kaze@dolphin.ocn.ne.jp

2010年2月5日(金)より、新しい『風の家』が歩き始めます

みやけじま<風の家>は2005年10月の設立時より「やさしく」「仲良く」をテーマに歩み続けてきました。これまで同様、「やさしく」「なかよく」をテーマに、より島民の方々が自主的に運営できるよう運営方法を変え、2010年2月に新たな歩みを始めます。

開設日や時間については上記の通りとした上で、これまで以上に広く多くの方々と一緒に作り上げられていく『風の家』を目指してスタートを切ります。



東京災害ボランティアネットワークとは？

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、1998年1月に設立されたボランティアネットワーク。災害救援活動や防災・減災活動、ボランティア団体やNPO団体に限らず、様々な形で様々な課題に向かって活動している団体が、災害前に「顔の見える関係」を構築していくことを目的としている。構成されている団体は、ボランティア団体・NPO団体をはじめ、労働団体、消費者団体、社会福祉団体、海外支援NGO、企業と多岐にわたる。

これまで1998年福島豪雨災害や2000年三宅島噴火災害、2004年新潟水害、新潟県中越地震、2005年三宅島帰島支援など、様々な被災地で被災地支援活動・被災者支援活動を展開。

また、各被災地で気づかされたことを東京での防災・減災活動に生かし、都道府県行政、市区町村行政、社会福祉協議会、企業、そして地域の学校・町会などの地域団体と共に、災害といのちとくらしを想像して、考えて、実践していく小さな「気づき」の取り組みを実施している。

2009年5月現在80の団体が参加。

編集後記

2010年2月1日に帰島から5年の月日が経ちます。6月には2000年の噴火から10年の月日が経つこととなります。つまり、三宅島の皆さんと東京災害ボランティアネットワークの付き合いも10年が経つということです。随分と時間が経ったと思えばそうかもしれません。あつという間であったと思えば、やはりそうかもしれません。

2000年9月から2005年2月までの全島避難時、2005年2月から8月までの帰島時、つまり付き合いの前半5年は、語弊があるかもしれませんが、「支援者と被支援者」という関係でした。後半の5年間、つまり「みやけじま<風の家>」が設立してからの2005年10月から現在に至るまでは、「支援者と被支援者」という関係を越えた、お互いに学びあい、気づきあう関係へと変化しているのではないのでしょうか。

それを表すプログラムとして、本号で報告された「三宅島年末お掃除ボランティア活動」があるのでは。参加者の皆さんからの感想を読むと、その多くが「多くの学び・気づきをもらった」と感じていることがわかります。「支援者と被支援者」から「気づきあい・学びあい」の関係へ。すばらしい進化ではないのでしょうか。

フクダ